

渡辺勝幸

が取り組んだ活動について

令和5年 令和6年

11月～1月

県民の皆様から頂いた要望、行政調査・説明等、渡辺勝幸が今期取り組んだ政策テーマ及びその活動の主なものについてご報告します。一つでも多くの県民の声が政策として実現できるようさらなる努力をしております。

令和5年11月13日から、宮城県議会議員として三期目の新しい任期がスタートしました。

- 第35回若林区民ふるさとまつり
- 全国日台国際交流大会第9回日台交流サミットin仙台に、宮城県議会日台議員連盟として参加
- 全拉致被害者の即時一括帰国を求める国民大集会に宮城県議会拉致協議連事務局長として参加
- 介護保険制度研究会と仙台市介護四団体との要望に関する勉強会に参加
- 令和5年度宮城県私立幼稚園・認定こども園教育振興大会、第50回宮城県私立幼稚園・認定こども園PTA研修大会に宮私幼PTA副会長として出席し、司会を務めました。
- 宮城県障害者スポーツ指導者協議会主催「ポッチャ交流会2023inやまもと」に指導者協議会会長として参加、主催者挨拶
- 第6回みやぎパラボウリング大会にみやぎパラボウリング協会会長として挨拶、始球式
- 第18回公認バラスポーツ指導者全国研修会に、宮城県障害者スポーツ指導者協議会会長として参加
- 子どもたちの多様な学びとこれからの不登校対策についての勉強会、文部科学省初等中等教育局児童生徒課仲村健二指導室長にご講演いただく
- 仙台市高齢者福祉団体連絡会による宮城県宛て要望に宮城県議会介護保険制度研究会として同席、代表として挨拶
- 第22回仙台杜ライオンズクラブ杯小学生ドッジボール大会開会式に、宮城県ドッジボール協会副会長として出席
- 仙台市・仙台商工会議所令和六年新年のつどい
- 宮城県印刷・関連業連絡協議会新春賀詞交歓会
- 宮城県医師会新年会
- 令和6年宮城県歯科医師会新年会
- 令和6年仙台市消防出初式
- 第61回羽黒山伏新年大祈願祭併東日本大震災復興祈願祭
- 令和6年宮城県薬剤師会新年祝賀会
- 第27回仙台市若林区豊齢まつり
- 令和6年宮城県隊友会新年会
- 令和5年度宮城県庁茶畑会
- 若林区選出県議とみやぎ生協メンバーとの懇談会
- 令和5年度宮城県看護連盟会員研修会
- 令和5年度隊友会若林支部・家族会合同新年会
- 内閣官房拉致問題対策本部・宮城県・仙台市主催の拉致問題啓発舞台劇公演「めぐみの誓い」
- 沖野横堀西町内会令和6年度定期総会
- 令和6年株式会社佐々木組新年祝賀会
- 令和6年度一般社団法人全国介護事業者連盟宮城県支部・障害福祉事業部会宮城県支部合同新年会
- 公益社団法人宮城県宅地建物取引業協会令和6年新年賀詞交歓会
- 公益社団法人仙台青年会議所2024年度新年式典

12/19 自由民主党・県民会議

宮城県議会 自由民主党・県民会議による会派要望。庁議室。120項目にわたる令和6年度当初予算要望。県内各地の自民党派議員33名から、高橋宗也政調会長、伏谷修一政調副会長を中心にとりまとめ、令和6年度当初予算に反映するよう、村井知事に要望しました。



南小泉地区	12/7 アールベルアンジェ仙台 聖ウルスラ学院英智高等学校、小中学校伊藤直子校長による「聖ウルスラ学院と伊達家の縁について」
	1/6 南小泉町内会館 令和6年南小泉消防分団を励ます会にお招きいただきました。
六郷地区	11/12 六郷市民センター 令和5年度六郷市民まつりにお招きいただき、来賓挨拶をしました。
	1/6 ホテルメトロポリタン仙台 令和6年若林消防団六郷分団新年会にお招きいただきました。
南材地区	1/7 ハレスエイあん 令和6年南材地区新年会

沖野地区	11/4 沖野市民センター 第30回沖野地区市民まつりにお招きいただき、来賓あいさつをする機会をいただきました。
	11/6 沖野東小学校 仙台市立沖野東小学校において開校40周年記念式が挙行され、第14代PTA会長として祝辞を述べました。
	12/3 沖野市民センター 沖父ちゃん会・沖小親児の会によるおやしの会連携、小学生対象の沖野市民センター主催事業「フットドッジボール大会」
	1/13 食事処廣瀬 沖野体育振興会・沖野東体育振興会新年会

市道沖野上飯田線西側歩道に歩道用防護柵を設置！

沖野東小学校西側、市道沖野上飯田線西側歩道は小学生の通学路ですが、歩道用防護柵がなかったため、地域の方々のご意見を伺いながら、菅原正和前仙台市議にご尽力いただいて、11月、歩道用防護柵設置の工事が完成しました。子供たちの通学、また地域の安全度が高まります。お力をいただきました関係機関のみなさまに感謝申し上げます。



交通指導隊六郷分隊隊員として、議会活動のない日を中心に、沖野東小学校正門前で立哨しています。地域の皆様には交通安全へのご協力をいただき、誠にありがとうございます。

自民党宮城県連



メディア掲載 渡辺勝幸の活動について、メディアで取り上げていただいておりますのでご紹介します。

- 「県議会自民党派新会長に守屋氏」(『河北新報』朝刊令和5年11月2日)
- 「自民党派会長に守屋氏」(『読売新聞』令和5年11月2日)
- 「4病院再編構想めぐり専門家「病床稼働率が低下していて再編必要」議員らに訴え」(TBC東北放送令和6年1月19日)



街頭活動24回！ 平成23年より街頭活動を継続しています。令和5年11月から数えて1月30日現在で、24回目の街頭活動となりました。若林区内で「つくる」ののほりを見かけましたらお声がけください。

渡辺勝幸プロフィール

昭和50年生まれ仙台市若林区出身。48歳。沖野中、仙台一高(46回応援団長)、慶應義塾大学学部卒。慶應大学院在学中より市川一朗参議院議員政策秘書(平成12年より22年)、平成26年仙台市立沖野東小PTA会長。平成27年宮城県議会議員(若林選挙区)初当選。現在3期目。平成29年県議会総務企画委員会副委員長。平成30年県議会スポーツ振興調査特別委員会副委員長、自民党宮城県連青年局長。令和元年県議会環境福祉委員会委員長。仙台市立沖野中PTA会長。令和2年県議会再生可能エネルギー・脱炭素調査特別委員会委員長。令和3年自由民主党・県民会議政務調査会長、県議会経済商工観光委員長。現在、宮城県議会自由民主党・県民会議幹事長。宮城県議会議会運営委員会委員、環境福祉委員会委員、地域再生調査特別委員会委員。自民党・県民会議防衛議員連盟会長代理、医療福祉連連幹事長等。東北大学大学院非常勤講師(情報技術経営論)。仙台市若林区交通安全協会六郷支部顧問。宮城県私立幼稚園PTA連合会副会長。宮城県障害者スポーツ協会常任理事等。

Katsuyuki Watanabe PROFILE

個人献金のお願い

地盤も看板もない渡辺勝幸の政治活動を支えるためには、皆様の方強いお支えが引き続き必要です。B4一枚の活動報告を5000世帯に郵送するだけでも、**84円×5000世帯=42万円**の費用がかかります。切手1枚でも大変助かります。なお、献金いただけます場合は、事務所までご一報くださいますようお願い申し上げます。ボランティア・ポスティング活動へのご支援も合わせてお願いいたします！

県政レポートにつき毎号多くの方からお手紙やメールをいただきましてありがとうございます。県政活動の参考にさせていただきます。✉

*公職選挙法178条により 政治家が選挙区内の人に時候の挨拶状を出すことは禁止されております。皆様には何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

宮城県議会議員

渡辺 勝幸

県政レポート第33号

宮城県議会議員渡辺勝幸
発行/宮城県議会議員渡辺勝幸事務所
発行日/令和6年2月18日

令和6年

2月

1月1日に発生しました、令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。

宮城県議会 第390回(令和5年11月)定例会を終えました！

11月28日、宮城県議会第390回(令和5年11月)定例会が開会されました。この議会は改選後初の県議会であり、新たな会派構成、委員会構成の決定、正副議長の選挙がありました。新たな宮城県議会議長に高橋伸二議員(柴田選挙区)、副議長に本木忠一議員(石巻・牡鹿選挙区)が選出されました。渡辺勝幸は、県議会最大会派である「自由民主党・県民会議」の幹事長に就任し、他会派の議員とともに県議会の活動に取り組みました。また、国の経済対策を踏まえた物価高騰対応費や、老朽化が進む県立精神医療センター(名取市)の雨漏り対策費2億1,300万円など計532億8,800万円を増額した令和5年度一般会計補正予算など39議案を可決。さらに、「教員の奨学金返還減免を求める意見書」「医療・介護・障害福祉分野における処遇改善等を求める意見書」「パレスチナ自治区・ガザ地区における平和の早期実現を求める決議」も可決されました。

宮城県議会自由民主党・県民会議の幹事長に就任しました！

渡辺勝幸は、11月1日付で宮城県議会最大会派の「自由民主党・県民会議」幹事長に就任しました。幹事長は、議案の審査や議会の運営等について、各会派間での協議や調整にあたり、会派の運営・人事調整等を進める役職となります。選挙直後の会派幹事長ということで、新しい県議会をつくるための下準備で当選直後からあわただしく活動をしておりましたが、宮城県議会の最大会派の方向性を決めるという重要な役割でもありますので、宮城県民の代表として、政策立案、そして村井知事をはじめとする執行機関に対するチェック機能をしっかりと果たしていきたいと思っております。

令和5年度11月補正予算(第3号)の主な内容について紹介します

新規 精神医療センター施設修繕に伴う貸付 病院機構施設緊急整備費(2億1,300万円)	拡充 処理水海洋放出に係る漁業経営サポート資金の貸付条件の拡充 漁業経営サポート資金利子補給(2,000万円)
新規 家畜伝染病防疫資材倉庫の建設 防疫資材倉庫整備費(3億1,900万円)	救急医療の適正利用のための相談電話(#7119)の運営 救急電話相談費(1億700万円)
	宮城スタジアム等の公認継続に向けた改修工事 総合運動公園施設整備費(4億8,700万円)

令和5年度12月補正予算(第4号)の主な内容について紹介します

《物価高騰への対応》

新規 労働者派遣契約による補助金交付業務の一括委託 補助金交付業務一括委託費(1,250万円)	生活困窮世帯に対する物価高騰対策を行う市町村への支援 生活困窮世帯支援費(4,800万円)
拡充 園芸農家に対する光熱費等のかかり増し経費への助成 園芸農業原油価格高騰対策費(2億3,170万円)	LPガス料金を値引きする販売事業者等への助成 LPガス料金負担軽減支援費(11億9,000万円)
	私立幼稚園等に対する光熱費等のかかり増し経費への助成 私立学校原油価格高騰対策費(1億4,600万円)

《持続的賃上げ、所得向上と地方の成長を実現》

エネルギー価格高騰の影響を受ける
中小企業等の販路開拓等への助成
中小企業等再起支援費(1億4,000万円)

経営転換・発展を図る担い手に対する
農業用機械等導入への助成
担い手確保・経営強化支援費(2億円)

《人口減少を乗り越え、変化を力にする社会変革を起動、推進》

新規 県立学校におけるICT機器の整備等
DXハイスクール推進費(1億8,000万円)

《国土強靱化、防災・減災など県民の安全・安心を確保》

新規 スギ人工林の伐採・植替への助成、花粉の少ない苗木の生産拡大
花粉症解決緊急総合対策費(950万円)

拡充 特別支援学校の照明設備のLED化
校舎等小規模改修費(2億3,080万円)

宮城県議会 議会運営委員会委員・環境福祉委員会委員・地域再生調査特別委員会委員

議会運営委員会では、県議会定例会本会議の運営等に携わりました。また環境福祉委員会、地域再生調査特別委員会における活動に取り組みました。

環境福祉委員会

12/16 報告事項5か件、再生可能エネルギー地域共生促進税の新設に係る総務大臣の同意、保健福祉部において令和5年度に策定する計画の中間案、東北医科薬科大学宮城A棟医師の義務履行、戸籍法違反事案に係る過料、障害者手帳と個人番号（マイナンバー）の紐付け誤り。

1/19 東北大学大学院医学研究科藤森研司教授より参考人意見聴取。引き続き報告事項「令和6年能登半島地震」の発生に伴う宮城県の対応等、宮城県民会館及び宮城県民間非営利活動プラザ複合施設の新築設計業務に係る進捗、仙台赤十字病院と宮城県立がんセンターの統合に関する基本合意及び重点支援区域の選定並びに仙台医療圏の病院再編地域説明会の概要、第9期みやぎ高齢者元気プラン中間案、宮城県母子・父子福祉センターの移転方針。引き続き集中審議、第3期宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画（中間案）、第6期宮城県薬物乱用対策推進計画（中間案）。

委員会での渡辺勝幸質疑内容

渡辺勝幸：仙台市民の不安の背景には、高齢化が進み、医療需要が当面増加する見直しにある中で医療機能が果たして確保できるのかという懸念があると感じる。同様に、医療需要が今後も増加する地域は大都市に多いのではないかと。他県においてどのような対応がなされているのか、どのように対応しようとしているのか、先生の知見をお聞かせください。

藤森研司参考人（東北大学大学院医学研究科教授）：増加していくのは高齢者特有の疾患、誤嚥性肺炎が増加し、がんや心筋梗塞はそれほど増えない。急性期の病院では今後増えていく患者層と少しニーズが合っていないという側面がある。肺炎等を見ていく、あるいは在宅で見ていく医療資源を増やしていくべき。仙台医療圏では急性期が見ざるを得ない状況にあり、変えていかなければいけない。今回の診療報酬改定で病院機能分化が見えてくるし、全国で急性期が過剰で回復期が足りない。仙台医療圏は在宅医療が進んでいない。バランスよく見ていくことが大事。

渡辺勝幸：仙台市民の思いとしては、市内の大きな2病院が市外に転出することで、とりわけ救急搬送の問題については市内の医療体制に不安が大きく、われわれ自民党会派内でもこうした意見がある。私自身も仙台市民として、この点は大きな問題だと感じている。こうした不安を解消するために、医療体制という視点から県や仙台市が行うべきこと、その中には役割分担や連携が必要不可欠だ。県、仙台市のあるべき役割を具体的にご教示いただきたい。

藤森研司参考人（東北大学大学院医学研究科教授）：仙台医療圏では救急も競合している。実際回っておらず、不応需という形で断ってしまっている。救急を本当にやれる病院を選んで、補助金を投入して強くしていく。県も補助金を出しているが、在り方を考えていくべき。救命救急の広域連携を県が音頭を取って、たとえば「#7119」と「#8000」という県と市の共同事業を24時間使えるようにするなど札幌市の事例がある。市と県の連携はまさに地域医療構想に沿うところ。

渡辺勝幸：お話のなかであった「病床稼働率」について、民間の採算ラインは95%であるのご指摘。この点は、病院経営の素人である私としてはイメージを持ちにくい。一般論でかまわないが、7割台の病床利用率である、民間病院の経営状態は、どういう状態なのか。

今後どういう状況になっていくのか。（※仙台赤十字病院は71.9%、東北労災病院は76.1%となっている）

藤森研司参考人（東北大学大学院医学研究科教授）：7割というのは、看護師さんがもういなくて集まらず、病床があるが病棟を閉鎖せざるを得ないという医療機関はある。全床開いているが患者さんが確保できず7割ということも。患者さんの確保を積極的にできないという医療レベルの技術の問題がある場合もある。いずれにしてもそうすると人をギリギリまで減らす。人件費、給料をギリギリまで減らす。そして新規建替への余力が全くないので、耐用年数が来たところで閉院。あるいはどこかに買っていただく。民間病院も再編していかなければならないが一国一城なので、簡単ではない。建物がある、使えるうちはよいが、使えなくなった時点、跡取りが見つからなかった時点で医療法人の解散というのを最近よく見るようになってきた。もし移転をしなくて病院が閉院に追い込まれた時の意味をどう考えるか、そこを丁寧に説明していくのが大事。



【集中審議】

「第3期宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画（中間案）」について

渡辺勝幸：この基本計画については、議員提案条例で制定され次の12年もこの基本計画で進むということになりますので、重要な計画だと考えている。特に青年期、壮年期、中年期、高齢期、働き盛り世代の課題、障害児者の口腔ケアの環境整備、歯科医師会の方からも様々要望を頂いており、こうした課題について、具体論を進めていく必要がある。この中間案の各論、課題解決のために県が進めること、虫歯のある人の割合の地域間の差の解消への取り組み。この地域間の差があるという分析のなかで、この差の解消に向けてフッ化物配合歯磨き剤の使用の推進、フッ化物洗口の導入支援などの歯科口腔保健対策の普及に努めるということで、歯科医師の先生方からもフッ化物の効果は非常に大きいということ、多くの先生方が言及されている。ぜひこの使用推進をさらに進めていただきたいと思うが、この虫歯有病者率の地域間格差とフッ化物の推進にどれぐらい関連性があるのか。

狩野健康推進課長：フッ化物応用の実施状況とそれから地域的な状況ということだが、分析している中では、例えば実施しているけれども、なかなか改善が進んでいない地域、あるいは実施していないけれども、他の施策をという部分もある。ただ、中には、女川町のように、これまでフッ化物応用に取り組んできた結果、年々12歳児の虫歯の状況が改善しているというふうな、実感をもって、町の担当者さんの方で捉えているというところもあるので、着実に今後も続けていくことで、改善に結びつくものと考えている。

渡辺勝幸：そういう具体例を、ぜひ県内各市町村で取り組みを進めていただきたい。もちろんそのフッ化物関連の効果は非常にあると思うが、2年ほど前に、川崎町富岡中学校の視察をした。川崎では幼少中と歯科衛生士の方が授業で歯科保健指導を実施しており、その現場を視察したが、歯磨きの仕方など具体的に、あるいは口腔ケアが健康にとって大事だということ、小さい頃から定期的に子どもたちに教えていて、実際に効果が出ていると聞いている。地域間格差解消のために、やはり口腔保健支援センターと市町村の連携というのは非常に重要だと感じるし、また、郡市の歯科医師会、地域の歯科医師会と、市町村、また県の口腔保健支援センターが一緒になって動くともた大きく変わってくると思うが、なかなか進んでいない地域もある。この点についてどうか。

狩野健康推進課長：今回、この次期計画を策定するにあたり、県内各市町村の実際の状況を把握しようと、保健所単位で回り、県の非

常勤の部参与である歯科医師の方も御同席いただいた。その中でやはり各地域の実情・課題というのはそれぞれに異なっている。それから圏域内のお互いの市町村同士でどういうことに取り組んでいて、どういうことに課題を感じていて、どういうことが功を奏しているのかということが情報共有できる場というものが今回あった。そういった中で出てきた意見としては、やはり好事例の横展開をぜひしていただきたいと。こちらとしてもさせていただきたいと考えており、今後も各市町村の状況に応じながら、その横展開を進めていきたい。

渡辺勝幸：大規模災害時の歯科口腔保健に関する事項について。この新年早々、能登半島の地震もあり、災害医療については多くの重要性が改めて全国的に再認識された。この中で災害医療コーディネーターについては、他県では進めている事例があるが、宮城県歯科医師会から歯科医師を参画させるべきではないかと強く要望をされているが、現時点では宮城県では入っていないという状況にある。この点については、どのようにお考えか。

狩野健康推進課長：災害医療コーディネーターについては、県歯科医師会から、歯科医師の参画について御要望いただいているところだが、まずいわゆる発災後、72時間以内の緊急に対応すべきという点では、医療の部分での要素が大変大きいと考えている。歯科に関しては、そういった緊急の歯科救護ももちろん必要だが、どちらかというそれ以降の、避難所等に移って、生活していく中での歯科保健、歯科口腔保健の要素も大変大きいと考えている。むしろそちらの点での連携協力の方をお願いしたいというのが考え。災害医療コーディネーターの集まる会議などには歯科医師会から、今オブザーバーということで普段の会議の方には参加いただくということで、連携を図っているところ。

渡辺勝幸：72時間以内という区切りの中だが、他県でももう入っている事例もある。国の方でもやはり72時間以内に、歯科医師も参画するような通知も出ていると聞いている。また、今回も口腔ケアの中で緊急のものもあるし、医療的な部分だけではなく、薬も含めて、やはり発災後すぐに必要になる分野というものもあるので、そういう点では必ずしも落ち着いてから歯科医療が必要だという点もある一方で、緊急的に歯科口腔ケア、また、災害直後から肺炎になったり、風邪になったり、別の医療的な課題も出てくるとも聞いているので、この点は少し72時間以内にまずの初動を歯科医療を含めていくという考え方を進めていくべき。

地域再生調査特別委員会

1/12 委員間討議

がん対策推進に係る条例検討会

宮城県議会ががん対策推進に係る条例検討会の委員に任命されました。がん対策推進条例制定に向けて、超党派で議論、議員提案条例制定をめざし進めてまいります。